

自分の主張だと言いだめた。そして、その主張を国際社会が選択したので、自分の主張は正しいと言っただ。

物腰は柔らかで、必ず同意を求める「ねっ!」「でしよう?」を多用する。そして、始終、私たちの発言を遮り、持論を展開するという戸塚氏の話しぶりは、結局「相手の意見を聞かずに自分の意見だけを述べる」というスタイルだった。そして、少しでもこちら側から質問をすると、論点をずらしながら回答を避けていく。そんなかみ合わない会話だったが、「性奴隷」という言葉の発案者のナマの話聞いたことは、貴重な機会でもあった。

#### 第四章

## 初めての委員会発言で 国連に風穴を開ける

第2次派遣・ジュネーブ国連代表団 (2015.7)



第2次派遣。ジュネーブ国連代表団(2015.7)  
のメンバー。

した。そして、今年行ったのは、「女子差別撤廃委員会」の「会期前作業部会（プレセッション）」  
といい、両者は2つの異なる委員会です。

どの委員会にも「会期前作業部会（プレセッション）」と「本作業部会（セッション）」があります。  
「会期前作業部会」（簡単に「準備会合」といってもよい）では、国連に事前に登録している  
各国のNGO（非政府組織）より、審査対象国の政府への要望、質問や苦情等が委員会へ寄せ  
られます。ここが、昨年までは、日弁連NGOを筆頭に反日左翼の巣窟となっていた場所です。  
各委員会では、各国の国連に登録したNGOにのみ、事前文書の送付及び委員会での発言権  
があります。ここで話し合われた内容が、List of Issue（リストオブイシュー、問題点のリスト）  
として、日本政府に送られる訳です。

昨年は、この「会期前作業部会」ではなく、その後の「本作業部会」に行ったために、我々  
の意見が一切反映されませんでした。そこで、今回は、我々の意見が何らかの形で反映される  
様にこの「会期前作業部会」に行くことにいたしました。

会期前作業部会には、今回は3つの反日NGOと、我々側の2つのNGOの合計5つのNGO  
が参加しました。双方のNGOの団体名は次のとおりです。

○左派NGOグループ

## トキメント 国連で日本の 巻き返しが始まった！

ふじき  
藤木 俊一  
しゅんいち

### ■会期前作業部会と作業部会

今回の、第二次「慰安婦の真実国民運動国連派遣団」の参加人員は20名。

今回、国連に行った目的は、第63回女子差別撤廃委員会（CEDAW）の会期前作業部会（プレ  
セッション）に参加することでした。

まず、国連の仕組みを簡単にご説明いたします。

前年、私達が行ったのは「自由権規約人権委員会」の「本作業部会（メインセッション）」で

反日左翼側のNGOからは、相変わらず、事実を隠し都合の良いように切り取った政府批判が繰り返されていました。

慰安婦問題に対して、我々の側は、国連で議題に上る「強制」や「性奴隷」というのは間違いで、それらの主張には、一切の証拠が存在しないこと、反日のための材料として利用されていること、日本国内では、朝日新聞が誤報を認めたことにより、慰安婦の強制は無かったことが広く知られるようになったことを強く述べ、更に委員会に精査するようにとの要請をしました。(発言内容の詳細は、杉田さんの報告に譲ります)

これに対し、委員長より「慰安婦問題で、もう一つの見方があるとは初めて知った」「精査する」との発言を引き出すことができました



国連内で発言する、杉田水脈・元次世代の党衆議院議員(中央)と山本優美子なでしこアクション代表(右)。

- ・日本弁護士連合会NGO
- ・日本女子差別撤廃条約NGOネットワーク
- ・スペースアライズ
- 保守側NGOグループ
- ・国際キャリア支援協会
- ・なでしこアクション

我々は、「国際キャリア支援協会」というNGOのメンバーとして出席しました。しかし、1つのNGOでは、発言時間が限られるために便宜上「なでしこアクション」との2つのNGOとして参加しました。

### ■二人の女性の発言で日本政府への質問を書き換えさせる

慰安婦問題であるために、男性が発言するよりも女性が発言する方がはるかに受け入れられやすい。そこで、杉田水脈・元次世代の党衆議院議員と山本優美子なでしこアクション代表に発言してもらいました。

た。

ここで、トニー・マラーノ氏は、1944年の米国陸軍の朝鮮人慰安婦への尋問調書NO・49にも、「高給取りの売春婦」「兵士と映画を見たり自由に買い物に行ったり、コンサートに行ったりしていた」等と記載されていることを紹介。「性奴隷などとは、ほど遠い厚遇をされていた」と発言しました。

また、左派NGOより委員会に対して「アイヌ、部落、韓国人・朝鮮人、沖縄の女性が差別されヘイトスピーチの対象になっている」との発言があったために、トニー氏よりすかさず反論が出されました。

トニー氏は、「ヘイトスピーチの対象になるのは、韓国・朝鮮人だけではない。韓国だけを取り上げるとは、その他のヘイトスピーチによる被害者に対する差別である」と述べました。

従来は、反日左翼側の言うことは、委員会に全て鵜呑みにされてきましたが、これらの我々保守側NGOの発言により、日本政府に対して出されるList of Issueの内容の2つの部分が書き換えられました。欠席裁判をまぬがれたわけです。

一つ目は、「委員会は最近の公式声明文（我々が提出した文書―藤木注記）から以下の報告を受けた。『慰安婦』の強制連行を証明するものは無かった」。これに関しての（日本政府の）見解を述べて下さい」というものでした。

二つ目は、「アイヌ、部落、韓国・朝鮮人、沖縄の女性」と反日左翼側が言っていた部分が、全て「マイノリティ」に書き換えられました。

この2点が追加・変更されたことは、非常に意義のあることです。

慰安婦問題に対して、我々の主張が、今回、正式に議題に上がることになったのに加え、従来までは、「韓国」という文字が入ると、必ず、これを韓国政府や市民団体、日本の左翼新聞等が利用し、「国連が、これこれと言っている」という形で利用していたのです。それができなくなりました。

会期前作業部会で作成されたList of Issueが、国連より日本政府に送られ、日本政府はそれに対する意見や反論を準備して、翌年の2月に行われる作業部会に「政府代表団」を送り答弁を行い、そこで、さらに話し合いが行われ、その後、国連の委員会より日本政府に対する改善要請や勧告が出されるといふ仕組みです。

今回の国連でのミッションは、「慰安婦＝日本軍に強制された性奴隷」という、すでに国際社会で定説となっているものを覆していく端緒を開くことでした。List of Issueにおいて、日本政府に「強制連行」についての見解を求める内容が盛り込まれたことは、大きな成果と言えます。いよいよ国連の場で、日本の巻き返しが始まったのです！

会と交渉し、訴えるべきかを解説しました。

イベントでは、布浦万代先生の万葉集講座「古代日本女性の社会進出と知的財産」や有志による「大和心」のテーマなど、日本を紹介することに注力しました。

また、アルメニア人博士による講演も行われ、オスマントルコによるアルメニア人のジェノサイドが行われたときに、日本より非常に多くの支援が届いたことが、ジェノサイド博物館に展示されていないので、現在、展示をするように働きかけているとのことでした。

アルメニア人は、慰安婦像が建てられたカリフォルニア州グレンデールの人口の25パーセント近くを占めており、韓国人が、このジェノサイドと慰安婦を同列視させるように仕向けた



国連内 NGO イベント「ジャパノロジー」参加者。  
前列中央が岡野俊昭団長。

しかし、今後の日本政府の対応如何では、また、元の木阿弥になる可能性もある為に、今後は、政府関係者、外務省等に対して、積極的な情報提供を行い、翌年2月の政府答弁にて、明確に「軍や官憲により強制された証拠は無い」という内容が盛り込まれるように働きかけていこうと考えています。

### ■ イベント「ジャパノロジー」を開催

昨年は、経験不足、情報不足で排除されたNGOによる討論を行うために、国連内部の部屋を借りて、「ジャパノロジー」と称するイベントを国際キャリア支援協会主催という形で開催しました。

ここでは、「慰安婦は高給取りの売春婦である」という証拠を表示したパネル展を「慰安婦の真実国民運動」の主催という形で行い、さらに、日本の伝統文化を紹介するイベントや日本と海外のギャップに関することなど様々なテーマのパネルディスカッションを3日間にわたって開催しました。また、入り口で、慰安婦関連の様々な資料、慰安婦関連の英文の書籍などを配布しました。

パネルディスカッションでは、日本と諸外国の常識の違いに関して発言し、いかに国際社

結果として、慰安婦像が建ちましたので、その対策をこの博士と話し合うことができました。

また、この博士の書いた論文をグレンデール市のアルメニア人コミュニティに配布するのはどうか？との提案をいただきました。現在、その論文を取り寄せるべく動いています。

開会期間中に、日本人の国連職員と数時間に渡って話をする機会がありました。この国連職員も、「慰安婦問題についての誤解の定着は、反日左翼のデータメな主張が繰り返された結果であり、皆さん方が初めてこのように国連に来て、場所を借りて反論を展開していることに感謝したい。今まで、心を痛めていた」と言われました。「小さな一歩でも、これを行ったことで、反日左翼に対する大きな牽制になっていることは明確だ」とも言われました。

また、その他にも、様々な有益な情報を得ることができ、今後の活動がより一層、やり易くなったと考えています。行動する大切さを感じた国連活動でした。

### ■ ユネスコ本部にて「南京」などの登録に反対する行動 7月30日

7月29日に国連関連が終わり、翌30日午前2時にジュネーブのホテルを出て、レンタカーでフランス・パリのUNESCO本部へ向かいました。参加人員は7名でした。

ユネスコに足を伸ばした目的は、中国による「従軍慰安婦」「南京大虐殺」関連資料の記憶遺

産登録を阻止することでした。そのために、様々な資料と署名をもって、ユネスコ本部に行きました。

これらがユネスコ記憶遺産に登録されれば、ほぼ、世界中がこれらの嘘を信じることになり、永久に日本がこれらの冤罪を着せられてしまいます。世界各国の教科書等へ記載される可能性も出てきます。

ユネスコ世界記憶遺産事務局の責任者へ、我々が日本より持参した藤岡信勝拓殖大学客員教授と高橋史朗明星大学教授作成の意見書と関連資料、英文で書かれた関連書籍、この登録に反対する署名約8000筆を手渡しました。そして、選考委員長へ渡して頂ける確約をとりました。

ユネスコ事務局の担当者のお話では、通常、登録に関する異議申し立てはないために、このように異議を受け付けた前例はないとのことでした。しかし、公平さを期すために受けとり、選考委員長に渡すとのことでした。そこで、委員長だけでなく委員各位にも是非渡して欲しいとお願ひしましたが、「それは、委員長の判断になる」とのことでした。

ここで、私は、私の意見として、「朝鮮戦争以降1995年まで、国連から派遣された国連軍（米軍）が韓国人慰安婦を強制的に劣悪な環境で安価で働かせていた事実がある。もし、この日本軍について行っていた慰安婦に関するユネスコ記憶遺産に登録するのであれば、当然、国連軍の慰安婦も登録しなければ公平さを欠く。また、その他の戦争で慰安婦として利用され

しかし、やはり、日本人の敵は無関心な日本人である事、国民の税金を使ってパリにユネスコ日本代表部を置いているにも拘わらず、対応に積極性が感じられなかったことは、非常に残念に感じました。これは、政治家を通して、再度、強く申し入れる必要があると思いました。

国連、ユネスコを通じて、日本政府の長年にわたる怠慢と、最高裁判決の上に国連機関の決定を位置づけようともくろみ、国連に暗躍する日弁連、反日左翼が国連を舞台に繰り広げていた日本バッシングを放置してきたツケは、もはや取り返しがつかないレベルにまで達してしまっていると痛切に感じました。これは短期間に改善されるような問題では無いことは明らかですが、我々の行動により、



ジュネーブ国連欧州総本部正面。

た女性達に関しても登録しなければならなくなり、国連自体に大きなブーメランとして返ってくることになる」との説明をし、それを委員長に伝えるように依頼し、伝えていただけるとの返答をもらいました。

ただ、残念ながら、10月のユネスコの記憶遺産に関する諮問会議で中国提出の「南京」が登録されてしまいました。

### ■ユネスコ日本政府代表部に申し入れ 7月31日

翌日、パリのユネスコ本部から2ブロックほどに位置するユネスコ日本政府代表部へ行きました。そこで、公使の奈良氏および書記官一名と面談し、ユネスコ本部へ申し入れに行ったこと、それに関して日本政府代表部によってフォローして欲しいとの申し入れを行いました。

ユネスコ本部で説明したとおり、これが登録されると、国際社会で取り返しが付かないほどのダメージを受けるので、政府代表部として絶対に阻止するように申し入れると同時に、交渉材料として、これが登録されれば、国連にとつても大きな問題になることを説明しました。

政府の役人だけあり、他人事のような感じも受けましたが、我々が様々な説明を行った結果、善処することでした。

反日左翼が従来のように国連で嘘や捏造をやりたい放題に拡散することは、今後は難しくなると考えます。

### ■国連NGOのステータスを高める必要

以上のことから、我々の側も、従来の反日左翼のようにしつこく国連に通い、彼らの嘘や捏造を未然に防ぐことが必要だと思いました。人権関連では、全てNGOからの意見で動いていきますので、今後、我々も、ステータスの高いNGOを作って対応しなければならぬと考えています。

国連に登録されるNGOには、次の3段階のステータスがあります。

総合諮問〔協議〕資格 (General Consultative Status)

特殊諮問〔協議〕資格 (Special Consultative Status)

ロスター (Roster Consultative Status)

特殊諮問〔協議〕資格 (Special Consultative Status) は、会議期間中に国連内の会議室を借り

て、サイドイベント等を開催する資格や人権理事会での発言権があります。「なでしこアクション」は、各委員会での発言ができる一般のロスターステータスです。こうしたことから、日弁連やその他の反日左翼NGOが、1団体6分という発言の時間があるのに我々は、1団体2分のみと言う不平等が生じています。山本さんや杉田さんが、発言時間をわずか2分とされたのは、こういう事情があったのです。

今後の課題として、「慰安婦の真実国民運動」も独自に「特殊諮問資格」を取得することが必須だと考えます。これにより、複数のNGOでの参加が可能になり、従来、反日左翼が行っていた手法をそのままに利用して、国連の内部の正常化ができると思います。

### ■一般市民向け慰安婦関連講演会 7月31日

ジュネーブ市内のホテル・プリストルの会議室を借り切り、一般市民向けに「慰安婦は性奴隷ではなく売春婦」と題した講演会を開催しました。

慰安婦の真実国民運動幹事長で、今回の国連派遣団の団長でもある岡野俊昭氏、米国より参加のトニー・マラーノ氏、なでしこアクション山本優美子氏、杉田水脈前衆議院議員、現地在住の有本さくらさんと私の、計6名でリレートークを行い、会場からの質問等にも答えました。



この講演会のために、慰安婦の真実国民運動より現地在住の有本さくらさんに前もってお願  
いし、告知に関する新聞広告を数回出して貰っておりました。  
参加した一般市民は10名程度と少なかつたのですが、元国連職員なども参加されており、相  
互にとって有意義な講演会となりました。また、今後、如何に人集めができるかなどの有益な  
情報をいただく事ができました。現地に日本人会や文化協会などがあり、その連携を取れば、  
多くの現地在住の日本人を集められることもわかりましたので、次回より、その様にしようと  
考えております。